

# 国 語

## 1 学習指導と評価の改善・充実

～平成26年度「北海道高等学校学力向上推進事業」学力テスト（Cモデル・Bモデル・Aモデル国語）の分析結果と指導上の改善点～

### (1) 学力テストの概要

#### ア 目的

全ての生徒に対し、社会的、職業的自立に最低限必要な学力を保証するとともに、能力・進路等に応じた教育を提供するため、対象や目的を明確にした3つのモデルを設定し、各モデルに応じて、生徒の学習内容の定着状況を把握すること。

#### イ 出題科目

「国語総合」

### (2) モデル別分析結果

「結果に基づく成果と課題」の●の項目は十分に身に付いていないと考えられる事柄、○の項目は成果が見られた事柄である。

#### ア 分析結果

モデル	出題領域	結果に基づく成果と課題	指導上の工夫・改善
C	話すこと・聞くこと	● 目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりすること。	◎ 調査したことなどをまとめて報告や発表をしたり、内容や表現の仕方を吟味しながらそれらを開いたりすること。
	書くこと	● <u>対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書くこと。</u> ○ 相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くこと。	◎ 相手や目的に応じた語句を用い、手紙や通知などを書くこと。
	読むこと	○ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり必要に応じて要約や詳述をしたりすること。 ○ 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。	特に正答率が低かった問題は、グラフから読み取ることのできる内容を、与えられた条件を満たした上で説明させる問題でした。
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	● 国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割などを理解すること。	◎ 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」の指導を通して、「伝統的な言語文化に関する事項」、「言葉の特徴やきまりに関する事項」、「漢字に関する事項」について指導すること。
B	読むこと	● <u>文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。</u> ○ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。	◎ 文章を読んで脚本にしたり、古典を現代の物語に書き換えたりすること。 特に正答率の低かった問題は、登場人物の行動から心情を読み取る問題でした。
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	● 文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにすること。 ○ 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字が書けるようになること。	◎ 読むことの学習を通して、自分のそれまで知らなかった言葉に関心をもたせ、それを「話すこと」や「書くこと」の学習において積極的に使うよう指導すること。
A	読むこと	● 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。 ○ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。	◎ 様々な文章を読み比べ、内容や表現の仕方について、感想を述べたり批評する文章を書いたりすること。
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	● 国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割などを理解すること。 ● 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字が書けるようになること。	◎ 単調な指導にならないよう、漢字の成り立ちや特質に触れたりするなどして、生徒の学習意欲が高まるよう工夫すること。 ◎ 文語文法のみ学習の時間を長期にわたって設けるのではなく、「読むこと」の指導に即して扱うこと。



## 2 「確かな学力」を育成する取組の改善・充実

### (1) 「国語総合」における「書くこと」に関する指導の改善・充実

#### ア 単元における指導と評価の計画の例

1 単元名 未来の自分に手紙を書こう～複数の資料を活用して～		
2 単元の目標		
<ul style="list-style-type: none"> <li>対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書こうとする。 (関心・意欲・態度)</li> <li>対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書いている。 (書く能力)</li> <li>国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割などを理解している。 (知識・理解)</li> </ul>		
3 取り上げる言語活動と教材		
(1) 言語活動 未来の自分に宛てた手紙を書くための一連の活動		
(2) 教材 進路に関する内容を含む書籍 (図書館の蔵書)・統計資料等		
4 単元の具体的な評価規準		
関心・意欲・態度	書く能力	知識・理解
対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書こうとしている。	対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書いている。	国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割などを理解している。
<p>本単元においては、「書く能力」の育成を目指し、学校図書館を効果的に活用するとともに、「話すこと・聞くこと」「読むこと」の言語活動を指導計画に位置付け、3次にわたる指導を展開している。 (関連する学習指導要領の指導事項 「国語総合」内容「B 書くこと」(1)のウ)</p>		
5 単元の指導計画		
次	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の注意点
第1次	<p>本単元では、自分の進路を考える上で参考となる書籍や資料の要点を読み取り、発表原稿にまとめて発表するとともに、未来の自分に宛てた手紙を書くことで学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の進路に関する書籍や資料を見つけ、読み比べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート及びホームルーム報告会の原稿作成、相互評価の後、未来の自分へ宛てた手紙を書くという見通しを示す。</li> <li>複数の書籍や資料の読み比べ、進路を決定する際に予想される苦労等をレポートにまとめる。</li> </ul>
第2次	<p>学校図書館やインターネットを活用して本や資料を探します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レポートをまとめる。</li> <li>レポートをグループ内で交流し、ホームルーム報告会の原稿を作成する上で参考となる他者の表現を記録する。</li> <li>レポートを基にホームルーム報告会の発表原稿を作成する。</li> <li>グループ内で報告し合い、相互評価することで、適切な表現方法の工夫の仕方について考える。</li> <li>ホームルーム報告会を行う。</li> </ul>	<p>【評価Cの生徒への手だて】 原稿の内容をまとめられない生徒には、自分に宛てた手紙の例を示すなどして、最終形の具体的なイメージを持たせます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ホームルーム報告会の原稿をグループで交流し、発表者となる代表生徒を1名選出する。</li> </ul>
第3次	<ul style="list-style-type: none"> <li>未来の自分に宛てた手紙を書く。</li> </ul> <p>生徒の作品をワープロソフトを活用して活字化し、冊子にまとめ、生徒に配布するなどして学習成果の交流を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームルーム報告会を通して他者の優れた表現を活用し、適切な表現の仕方について考えを深める。</li> </ul>

## イ 課題の解決に向けた取組

学力テスト（Cモデル国語）の結果からは、「書くこと」に関して、グラフを読み取り、指定された語を用いて書く問題に解答しない生徒の割合が高かったことから、「書くこと」の指導においては、前ページに示した具体的な取組を参考にするなどして、資料を基に、相手や目的を明確にし、それに応じた文章の構成や展開、表現の工夫をすることが必要となる。

報告会の発表などにおいては、「話すこと・聞くこと」を評価すると考えがちであるが、前ページの単元計画例は、生徒が学習の振り返りとして未来の自分へ手紙を書くことを、「書く能力」を育成するための言語活動として計画に位置付けている。また、生徒同士が交流や発表を通してお互いに表現方法の工夫の仕方を学んだ上で、その成果を、手紙の記述にどのように活用しているかを「関心・意欲・態度」の評価としている。なお、本単元計画は、キャリア教育との関連を図ったり、他の教師（ホームルーム担任等）と連携したりすることにより、国語の授業だけにとどまらない広がりを持った実践とすることが可能である。

また、「国語総合」においては「書くこと」を主とする指導に30～40単位時間を配当するとともに、学習の過程を一層明確にするために、題材を選ぶ、構成や展開を工夫する、的確に記述する、書いた文章を推敲したり交流したりするという指導が必要であることから、各学校において、生徒の実態に応じて、ねらいを明確にした指導と評価の計画を立てることが大切である。

## Topic

## 読書活動の推進について

読書活動は、子どもが言葉を学び、完成を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で不可欠なものです。読書活動について、「高等学校学習指導要領」には、次のように定められています。

学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること。（第1章総則 第5款5（11））

学校図書館を計画的に利用しその機能を図るなどを通して、読書意欲を喚起し幅広く読書する態度を育成するとともに、情報を適切に用いて、思考し、表現する能力を高めるようにする。（第2章 第1節国語第3款 2（2））

読書に関する指導については、学校図書館や地域の図書館などと連携し、読書の幅を広げ、読書の習慣を養うなど、生涯にわたって読書に親しむ態度を育成することや、情報を使いこなす能力を育成する必要があります。

### 地域への情報発信を目的とした取組 （北広島西高等学校による『図書館講座』）



学校図書館や書店を会場に、作家や大学教員等の講演や対談を実施することにより、学校や学校図書館に関する情報を地域に発信しています。

### 地域の図書館と連携した取組 （恵庭北高等学校・恵庭南高等学校と恵庭市の連携）



図書館司書により高校生向けに選ばれた書籍が、地域の図書館から定期的に学校に届けられます。生徒は書籍を自由に借りられ、朝読書などに利用しています。

(2) 「現代文B」における「読むこと」に関する指導の改善・充実

ア 単元における指導と評価の計画の例

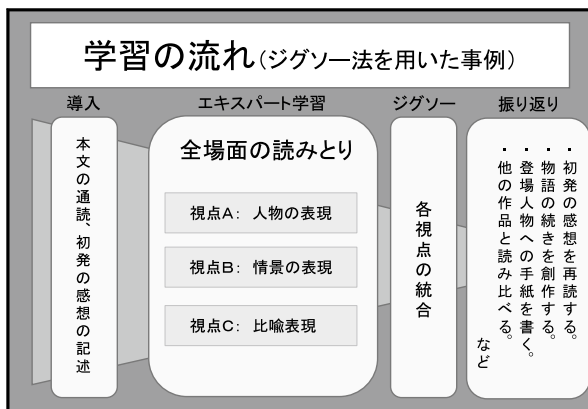
1 単元名 表現を根拠に登場人物の心情を考えよう		
2 単元の目標		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「人物」「情景」「心情」の表現に即して登場人物の心情を的確に理解しようとする。 (関心・意欲・態度)</li> <li>・「人物」「情景」「心情」の表現に即して登場人物の心情を的確に理解する。(読む能力)</li> <li>・国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割などを理解する。(知識・理解)</li> </ul>		
3 取り上げる言語活動と教材		
(1) 言語活動 ① 「比喻表現」「情景描写」「人物の行動」の各グループに分かれ、作品から表現を抜き出し、登場人物の心情を捉える。(グループ学習)		
② 作品全体を通して登場人物の心情の変化を確認する。(グループ学習)		
(2) 教材 『羅生門』(芥川龍之介)		
4 単元の具体的な評価規準		
関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
「人物」「情景」「比喻」の表現に即して登場人物の心情を的確に理解しようとしている。	「人物」「情景」「比喻」の表現に即して登場人物の心情を的確に理解している。	国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割などを理解する。
<p>本単元においては、表現に即して登場人物の心情を理解している状況を「おおむね満足できる」状況「B」として設定し、表現方法から作者の意図を考察するなど「B」の状況から高まりが見られた場合を「十分満足できる」状況「A」として判断します。</p>		
5 単元の指導計画		
次	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の注意点
第1次	<p>本単元では、本文中から「人物の表現」「情景の表現」「比喻表現」から、それぞれの場面ごとに登場人物の心情を読み取る。</p> <p>・本文を通読し、物語の背景及び場面設定についてまとめる。(一斉) <b>導 入</b></p>	<p>・ジグソー法を用いたグループワークを通して、心情を読み取る。</p> <p>・初発の感想を書く。(個人)</p>
第2次	<p>・本文から登場人物の心情を読み取るために、クラス全体を「人物の表現」「情景の表現」「比喻表現」の観点別のグループ(以下「エキスパートグループ」)に分け、各観点から登場人物の心情を読み取る。(グループ) <b>エキスパート学習</b></p>	<p>・例えば「人物の表現」のエキスパートグループは「人物の表現」のみから心情を読み取る。</p>
第3次	<p>・グループを、各エキスパートグループのメンバーが全て含まれるグループ(以下「ジグソーグループ」)に再構成し、3つの視点を統合して登場人物の心情をまとめる。(グループ)</p> <p>・各ジグソーグループは、各場面の心情について、根拠となる表現を含めて全体に発表する。<b>ジグソー</b></p>	<p>・ジグソーグループは、3つのエキスパートグループのメンバーが全て含まれる構成とする。</p>
第4次	<p>・グループでの学習を踏まえて、第1次で取り組んだ初発の感想を再読し、自己評価を行う。(個人) <b>振り返り</b></p> <p>※ 生徒の状況に応じて、物語の続きを創作したり、登場人物への手紙を書いたりする学習活動を取り入れる方法も考えられる。</p>	<p>・生徒自らが、「初発の感想」と「学習活動後の感想」とを読み比べたり、他の生徒の感想を読み、更に新たな視点が得られたりする機会を設定すること。</p>

イ 課題の解決に向けた取組

学力テストの結果から、「読むこと」に関して、「文章を読んで、書き手の意図や人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わうこと」、特に「登場人物の心情を的確に理解すること」に課題が見られた。人物、情景、心情の描写などを的確にとらえることは、文学的な文章を読む際の重要な指導事項であり、授業においては、書き手によって設定され、表現された人物の状況、その人物が行動する場面の情景、さらには人物の心情の推移などを間違いなく把握することが大切である。

また、「文章を読んで、書き手の意図や人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わうこと」を目的とする場合、表現を味わう対象となる文章は、主には文学的な文章となるが、書き手の意図をとらえるという点からは、論理的な文章や実用的な文章も含まれる。

なお、生徒が文章を読み味わうには、指導者の説明等を頼りにせず、まず、自分から文章を読み始める必要がある。指導者が文章の内容や表現の仕方に関する説明をして、その説明を通して生徒に文章の理解を促すというような指導は、生徒が主体的に文章を読むのではなく、説明された内容を知識として覚えることになりがちである。また、あまりにも細部を分析的に読むことに偏ると、文章全体の味わいを損なうことになる場合もあることから、文章全体を、表現に即して読み味わうことが大切である。



その説明を通して生徒に文章の理解を促すというような指導は、生徒が主体的に文章を読むのではなく、説明された内容を知識として覚えることになりがちである。また、あまりにも細部を分析的に読むことに偏ると、文章全体の味わいを損なうことになる場合もあることから、文章全体を、表現に即して読み味わうことが大切である。

